

か れ い

# 嘉例のながれ

江迎小学校 学校だより

平成29年度 第4号

平成29年5月9日（火）発行

文責：校長 立木 昭夫

ゴールデンウィークが終わり、今週から本格的に運動会の練習に取り組んでいます。一日に体育が2時間ある日もあり、子どもたちは、大変疲れて帰ってくるだろうと思います。ご家庭での健康面でのご配慮と励ましをお願いいたします。

## <運動会全体練習開始>

2日（金）から、運動会の全体練習を始めています。入場行進、開会式、退場の練習などを行いました。まじめに取り組んでいる様子が見られとてもうれしく思いました。当日までに頑張っしてほしいことを2点話しました。

一つ目は、元気いっぱい、競技、演技を行うこと、二つ目が、人の動きをよく見て、そろった美しい行進や演技をすることです。

あと2週間、しっかり頑張っ、元気いっぱいの子どもの姿を保護者や地域の皆様にお見せしたいと思います。



## <「ゆかりの丘」とは？（全校朝会での講話）>

5月2日（火）の全校朝会で、次のような講話を行いました。

『始業式、入学式で校歌を聞いていて、校歌の歌詞で不思議に思うことがありました。それは、1番の歌詞に出てくる「ゆかりの丘」という言葉です。辞書で調べると、「人や物同士のつながり合い」「紫色」と書かれていました。

そこで私は想像しました。「人や物同士のつながり合い」とは、学校では、子どもたちが集まって、先生や地域の皆さんと勉強するところということかな。でも、「紫色」と考えたら、今はふじの花の季節、学校の周りに、ふじの花がたくさん咲くということかな。こっちは当てはまるなあ。

でももう一つ引っかかることが、ありました。それは「丘」ということばです。今、江迎小学校のある場所は、丘と言えるほど高くはないですね。う〜んと考えていると、ピンと来ることがありました。

それは、江迎小学校が、昔は違う場所にあったのではないかということです。江迎町郷土誌（江迎の昔や今の事をまとめた本）によると、江迎支所の裏の丘、千灯籠のタワーの立っている江迎中央公園にあったと書かれていました。

さらに郷土誌で調べてみると、昔（江戸時代）、そこには、庄屋さんの屋敷があって、平戸にやってくる全国の人たちが、一休みしたり、一晩泊まったりしたということです。

そこに行ってみると、丸くて平らな大きな石が置いてあって、「吉田松陰の腰かけた石」と伝えられている説明書きがありました。吉田松陰と言えば、江戸時代の終わりに、明治



吉田松陰腰掛け石（中央公園）

時代に活躍するたくさんの人を育てた偉大な人です。また、江戸時代に全国を歩き回って、日本の地図を作った伊能忠敬という人も通っています。

こう考えてくると、皆さんもわかってきたでしょう。「ゆかり」とは、「人や物同士のつながり合い」という意味の方だったのです。江迎小学校は、400年ぐらい前の江戸時代から、人や物同士のつながり合った場所に立てられ、校歌もそのことを詩って、「ゆかりの丘」という歌詞になったということなのです。

今、場所は変わっても、校歌は歌い継がれています。皆さんは、その校歌に込められた思いを受け継いで、先生を始め、いろいろな人に教わり、友達と学びあって、成長してほしいと思います。』

子どもたちは、伝統の中でしっかり育まれていくものだと思います。私たち教師もそのことをしっかり意識して教育活動に当たっていきます。

#### <緊急時の送迎車の乗り入れについて>

P T A総会等でもお話ししておりましたが、大雨災害や突発的な事件など緊急時の送迎の対応として、校内への車の乗り入れについて、規定を作って実施するようにいたしました。詳しくは、別紙にてお配りしています。



簡単に説明すると、緊急な事案が発生したら、学校より「安心メール」にて、保護者の皆様へお子様の送迎を依頼します。そのときのみ、体育館側から入り、乗降を済ませた後、校門から出るという車の流れを作って校内への乗り入れを可能にするものです。

もちろん、普段は、許可を得た車以外の乗り入れ禁止です。けがや病気等での送迎については、学校（教頭）へ連絡し、許可を得てください。基本的に児童は徒歩で登下校させていただくようにお願いします。（登校は、必ず、集団登校で！）